

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月4日実施)	総合評価 (3月18日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○単位制総合学科の利点を生かしたカリキュラム・マネジメントの推進に向けて学校全体で取り組む。 ○生徒の主体的な学びと確かな学力の定着に向けた、「系列」に応じた系統性のある学習の推進。	①新教育課程を実施するうえで生じる問題点を、継続的に把握し、適切に対処する。 ②新教育課程において、生徒が進路希望に応じて適切な科目選択をおこなうことで、主体的に学習に取り組むことを目指す。	①各年次、各教科との連携を密にし、問題点を早期に発見し適切に対処する。 ②履修ガイドブック、科目選択のガイダンス資料を適切に活用するとともに、キャリア支援グループと連携して、進路実現のための履修例や、3年間の科目選択、履修順序の例など更なる充実を目指す。	①各年次、各教科と連携を図り、問題点の発見、対処がおこなえたか。 ②履修ガイドブック、科目選択のガイダンス資料を適切に活用できたか。進路実現のための履修例や、3年間の科目選択、履修順序の例などを充実させたか。	①科目選択において、生徒の希望と選択科目の配置、履修順序に多少の齟齬が生じた。年次、教科との連携を密にし、問題点を早期に発見し適切に対処することができた。 ②履修ガイドブック、科目選択のガイダンス資料を適切に活用できた。	①今後も各年次、各教科との連携を密にし、問題点の早期発見につとめたい。 ②履修ガイドブック、科目選択のガイダンス資料における履修例や、科目選択、履修順序の例などを改定し、適切な科目選択がおこなえるようにつとめたい。	今後も特色あるカリキュラムの編成をお願いしたい。そのための人的な確保をして欲しい。 ICTの利活用については小中学校で使っているものを高校でも使えるようにするとよい。 生徒による授業評価も行われており、評価結果も申し分ない。評価結果を授業改善につなげるためには各授業担当者が自由記述の内容などを分析する必要がある。	履修ガイドブック、科目選択のガイダンス資料を活用し、次年度の科目選択を適切に実施することができた。 再編統合に向けた教育課程について検討を始めた。	選択科目の置き方を再考し、生徒がよりよい科目選択ができるよう計画を進める。 再編統合に向け、教育課程の検討を進める。 生徒による授業評価の結果を受け、組織的な授業改善を一層進める。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	○部活動のより一層の活性化を図り、魅力特色ある学校づくりを推進する。 ○SC、SSW、教育相談コーディネーター、外部機関との密接な連携を図り、支援を必要とする生徒一人ひとりへの支援体制の充実と強化を図る。	①部活動加入率60%を目標にして部活の活性化を図る。特に文化部の加入率向上に努める。 ②月に1回、定期的にコーディネーター会議を開き、戦略会議やケース会議を通して多様化する生徒一人ひとりのニーズに応えられるような合理的配慮を目指した支援をおこなう。	①部活動の活動紹介や大会日程、試合結果などの情報をSNSで積極的に公開して、生徒の関心を促し、入部率の向上を図る。 ②各年次の教育相談担当者が支援の必要な生徒情報を共有し、早期発見・早期対応に努める。また、教育相談について研修する場を設け、職員のスキルアップを図る。	①部活動加入率が60%以上になったか、文化部の入部率が特に伸びたか。 ②定期的にコーディネーター会議を開き、戦略会議やケース会議を通して課題のある生徒に支援ができたか。また、教育相談について研修を開くことができたか。	①部活動加入率は56%と昨年から2ポイント減少してしまった。また文化部の加入率は5ポイント減少したが、運動部の加入率は5ポイント増加し、一昨年と同水準になった。 ②月に一度コーディネーター会議を開催し、生徒の情報共有や生徒支援に努めた。また外部機関と連携を図ることができた。	①運動部 SNS の活用や中学生に対しての体験部活等で引き続き積極的なアピールを行う。年度途中入部を推奨し、年間を通じて部員を募集していく。 ②支援が必要な生徒課題解決に向けて、外部機関との連携を一層深めていく。	生徒指導については、心身の健全な発達を目指し、きめ細やかに対応がなされている。特色ともいえる運動部活動の活躍も目覚ましいものがある。文化部や部活動以外の活動のさらに充実し、すべての生徒の学校生活の充実を望みたい。保健・安全面についても適切に管理されている 保護者や生徒が学校へ要望を伝えやすい環境整備が求められる。	部活動については、複数の部活動が関東大会出場や県ベスト4進出などの実績を残すことができた。 SSWによる生徒対象の講演会やかながわこどもサポートドックを実施し、生徒の困りを早期発見し支援につなげることができた。	部活動の勧誘方法を再考し、多くの生徒が加入できる方策を検討する。 学校行事では生徒の主体的な活動を促進する。 講演会の実施、すぐるの積極的な活用をすることで生徒の安心安全な教育活動を支援する。
3	進路指導・支援	○多様な進路希望の実現に向け、進路希望分野別で継続的な支援を計画的に実施する。 ○外部機関と連携を行い、進路希望分野別のガイダンスや希望分野別の講習会を企画し、全ての生徒にとって適切な情報提供を実現する。	①全年次の学習計画に沿って、1年次の「産業社会と人間」2・3年次の「総合的な探究の時間」を個々の生徒の進路規模実現に資するよう効果的に行う。 ②進路別ガイダンス、進路別学習会を効果的に実施し、家庭に向けた情報提供を含めて適切でタイムリーな支援を行う。	①1年次は、自己理解と職業理解を計画的に支援。2年次は、進学・就職に向けた準備計画の確定と社会を取り巻く事象に対する探究学習を支援。3年次は進路希望実現に向けた取り組みを個別に支援する。必要があれば年間計画を適宜見直すなど柔軟に対応する。 ②ガイダンスや学習会で、クロームブック等を活用し効果的な情報提供と情報発信に積極的に取り組む。	①各取り組みでの振り返りシートを工夫し、生徒の記述が充実した内容になっているか。実施後のアンケート結果において理解が深まったと回答しているか。 ②生徒一人ひとりの活動が年次職員で共有できる資料提供ができたか。生徒一人ひとりの取組状況を保護者へ適切に情報提供できたか。	①各年次とも概ね計画どおりに支援することができた。職業理解教育では外部機関と連携し生徒の満足度が高い取組を実施することができた。探究学習は指定校研究の本年度の目標である「教員の研修」を踏まえ、探究の基本的事項を生徒に還元した。 ②ICT機器を積極的に活用し、ガイダンスや学習会のみならず、生徒へ有益な進路情報等を提供することができた。	①生徒にとって、個別最適な支援となるよう、他校の優れた取組を参考に、計画を充実させていく必要がある。探究学習も、指定校研究事業の成果を教員間で共有し組織的・継続的に改善していく必要がある。 ②ICT機器の環境が充実してきており、更なる進路情報の効果的な提供に取り組んでいく。	秦野市内に就職する生徒が多くはない。秦野市の産業振興課との連携は大変有意義な取り組みであったと思う。秦野市のみではなく、近隣の伊勢原、松田、小田原、平塚市などの企業へも広げつつ、固有の取組のある企業が説明できる機会があると良い。 進路選択は生徒が能動的に決められるとよい。 進路先を外部に示す時は分野別に示す等、見せ方の工夫が必要である。	秦野市の産業振興課との連携は生徒からも好評であった。 総合的な探究の時間の充実に向け、職員対象の研修会、専門高校や県外の総合学科高校の視察を実施した。 Webによる求人票公開について検討を進めた。	生徒のキャリア教育の充実に向け市内の企業との連携を充実させる。 総合的な探究の時間に係る研修を生徒に還元していく。 進路情報の効果的な提供にむけ、Webによる求人票公開を実施する。 生徒が能動的に進路選択できるよう丁寧な指導を行う。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月4日実施)	総合評価(3月18日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	<p>○「南が丘地区豊かな心を育む協議会」等との連携を通して幼稚園、小中学校・地域自治会等との相互交流をさらに充実する。</p> <p>○ボランティア活動のより一層の充実とボランティア精神の涵養を図る。</p>	<p>①地域の幼稚園・小・中学校や自治会と連携を深め、教育活動の充実を図る。</p> <p>②ボランティア活動、あいさつ運動を中心とした地域との連携を深め、生徒が積極的にボランティア活動に参加できるようにする。</p>	<p>①南が丘地区にある幼稚園・小・中学校との連携や地域の行事などに参加することができたか。</p> <p>②ボランティア活動に参加した生徒が増加したか。</p>	<p>①幼稚園・小・中学校との連携や地域の行事などに参加することができたか。</p> <p>②ボランティア活動に参加した生徒が増加したか。</p>	<p>①地域ぐるみあいさつ運動や地域行事に積極的に参加するとともに、公開講座を実施した。小学校や近隣保育園の子どもたちとスポーツ交流を実施した。</p> <p>②昨年度とほぼ同等のボランティア参加状況であった。</p>	<p>①引き続き地域連携を深めていくと同時に、積極的に広報し、多くの子どもたちと交流していく。</p> <p>②情報発信を積極的に行い、新規のボランティア等も見つけていく。</p>	<p>家庭・地域等の連携(行事・ボランティア参加等)が特色としてしっかり活動がなされている。保護者からの意見収集・連携についてはさらなる活性化が望まれる。</p> <p>あいさつ運動では部活動の生徒たちがさわやかに挨拶をしてくれる。これを続けることで日常的に挨拶をすることにつながっていくのではないかと、小学校だけでなく、中学校との連携も充実させたい。特に、『総合的な探究の時間』の発表については見学させて欲しい。</p>	<p>保育基礎やスポーツ概論では幼稚園、保育園、小学校と連携した授業を計画することができた。</p> <p>あいさつ運動では間口を広げて呼びかけを行ったが参加生徒は少なかった。</p> <p>ボランティアについては部活動を中心に交流を行った。</p>	<p>様々な教育活動で地域連携をすすめていく。</p> <p>3年次では4月当初に地域の企業訪問を計画する。</p> <p>『総合的な探究の時間』の生徒発表では近隣の学校にも公開できる体制を作る。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>○様々な教育環境の変化に柔軟に対応し、積極的に課題に取り組める持続可能な組織づくりを行う。</p> <p>○全職員が不祥事防止に対する意識を高く持ち行動する。</p>	<p>①地域の中学生・保護者に向けて、本校の魅力や秦野・伊勢原地区の発信を積極的に行う。</p> <p>②全生徒・職員が安心・安全に教育活動の課題に取り組める組織づくりを推進する。</p>	<p>①秦野総合高校の魅力や秦野・伊勢原地区の中学校を中心に積極的に学校訪問等を行う。</p> <p>②生徒が安心して快適に過ごせる環境をつくとともに、有事の際に迅速な行動ができるように備える。</p> <p>③不祥事ゼロを目指し働きやすい職場環境をつくる。</p>	<p>①定期的に学校のHPを更新できたか。また、秦野・伊勢原地区の中学校に十分に学校案内をすることができたか。</p> <p>②防災計画を図り、実行ができたか。</p> <p>③オフィス改善に向けて計画を立てるとともに、定期的な不祥事防止研修会を実施することができたか。</p>	<p>①学校の魅力や生活の様子などを正確に伝えるため、HPの更新を定期的に行った。秦野・伊勢原地区を中心に平塚・小田原地区まで本校の魅力を知ってもらうための学校訪問を積極的に行った。</p> <p>②5月に避難訓練、9月にシェイクアウト訓練、3月にDIG訓練を行った。</p> <p>③働きやすい職場環境を目指しオフィス改善の計画を立てた。毎月不祥事防止研修会を実施した。</p>	<p>①定期的にHP内を整理し、地域の中学生・保護者に正しく情報が伝わるよう引き続き努める。秦野・曾屋高校との再編・統合も視野に入れた学校案内を地域全般に広く案内できるように努める。</p> <p>②次年度は消火訓練を実施する。また、避難経路を確保した学校整備を行いたい。</p> <p>③オフィス改善の具体的な実施計画を立てていく。</p>	<p>授業料の無償化により生徒募集が課題となっている。秦野総合高校の独自性、よい点を明確に伝えるためには、他の高校との違いを明確にし、特色・魅力を通じた発信を、ホームページ等を通じて発信することが必要である。多くの中学生が当校を受検してくれることを期待したい。</p>	<p>中学校で実施される学校説明会や中学校訪問、HPの充実など様々な方法で学校の教育内容をPRすることができた。</p> <p>年間3回の防災訓練を実施することができた。</p> <p>働きやすい職場環境を目指し、オフィス改善の計画を立てることができた。</p>	<p>再編統合に向け、学校案内の掲載内容を変更する。また、様々な学校説明会で発信する内容や実施形態の検討を進める。</p> <p>消火訓練を含めた火災発生時の避難訓練を実施する。</p> <p>オフィス改善を実施し、働きやすい職場を作り、不祥事防止に努める。</p>